

ドキュメント有珠山噴火 3月28日～3月31日

3月28日

策連絡本部を立ち上げ（町は夕方に対策本部に格上げ）警戒態勢に入る。

室蘭気象台火山観測情報第1号を発表。前日から有珠山で火山性地震が増発し、前日の午前8時から24時まで総回数109回（平常時1カ月20回～30回）。

室蘭気象台臨時火山情報第1号を発表。道、胆振支庁、道警町（旧虻田町）が各自の災害対

同3号が発表され、「地震活動が活発化した後、1日ないし数日の間噴火した例が多いので、今後噴火する可能性が高い。警戒が必要」。

町は、温泉のコミュニティーセンター、旧月浦小学校、入江のコミュニティーセンターを自主

避難所とした。

温泉街は、午前中いつも変わらず、宿泊客を見送る姿があった。

3月29日

火山性地震589回に達する。マグニチュード3.4の地震あり。政府は、官邸連絡室設置する。

室蘭気象台緊急火山情報第1号で、「ここ数日内に噴火する可能性がたかくなっており、火山活動の警戒必要」と発表。

午後洞爺湖温泉全域、泉、入江地区一部1、411世帯2、7

04人に避難勧告発動

夕方には、すべての観光客がホテルを退去。

室蘭開発建設部は、国道37号入江～伊達市長和間、国道230号入江～ルスツ間、国道453号長和～大滝間の通行止めを発表。岡田教授は、「一両日中に噴火の可能性きわめて高く、遅くとも1週間以内に噴火する」と会見で発表。

温泉地区全域に避難勧告から指示に切替。JR室蘭本線長万部～東室蘭間運転中止。入江・泉地区の一部避難指示。避難者数1、473人。

3月30日

午前0時から午前9時まで火山性地震968回そのうち有感地震456回。

温泉地区全員の避難確認。岡田教授は、「爆発的な噴火を起す可能性がある」と指摘して、有珠山北西部の噴火のおそれに言及する。

自治会長会議開催。長崎町長は、「有珠山の現況は緊迫した状況にある」ことを説明し、避難体制の徹底をお願いする。

昼ごろ小有珠周辺で断層、亀裂の確認。

温泉で、道路亀裂、水道管破裂の情報が消防本部に入る。

入江地区全域・虻田8区・泉地区の一部に避難指示発動。

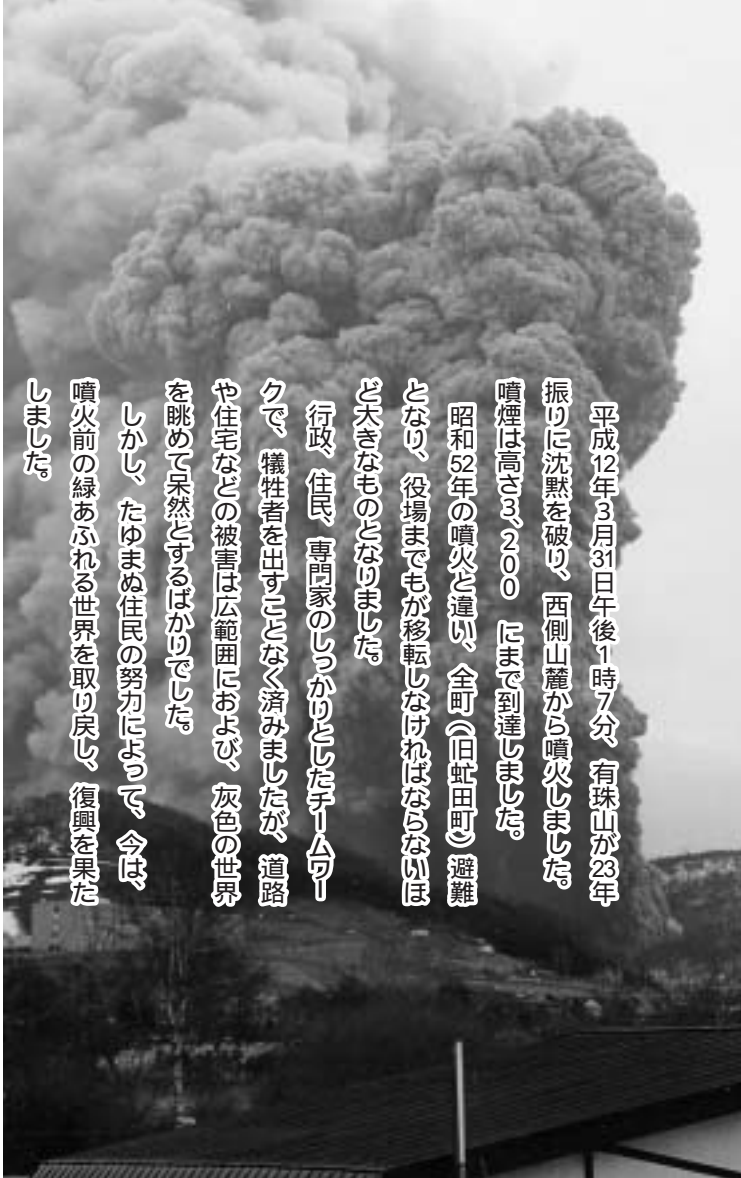
3月31日

30日の火山性地震合計2、454回うち有感相当地震1、091回と発表。

消防庁火砕流発生に備えて、緊急消防援助隊を派遣。

1時7分有珠山西側山麓から噴火。

10年 の共生」を



平成12年3月31日午後1時7分、有珠山が23年振りに沈黙を破り、「西側山麓から噴火しました。噴煙は高さ3、200 にまで到達しました。昭和52年の噴火と違い、全町（旧虻田町）避難となり、役場までもが移転しなければならないほど大きなものとなりました。行政、住民、専門家のしつかりとしたチームワークで、犠牲者を出すことなく済みましたが、道路や住宅などの被害は広範囲におよび、灰色の世界を眺めて呆然とするばかりでした。しかし、たゆまぬ住民の努力によって、今は、噴火前の緑あふれる世界を取り戻し、復興を果たしました。